

相談

「あれ、何か変だな」「困ったな」と思ったら

■ 地域包括支援センター

あま市地域包括支援センター あま市役所甚目寺庁舎内 052-444-3159
※認知症地域支援推進員がいます

あま市社会福祉協議会地域包括支援センター

甚目寺総合福祉会館内 美和総合福祉センターすみの里内 七宝老人福祉センター内
052-443-4291 052-446-0611 052-441-1681

■ 認知症初期集中支援チーム

認知症についての困りごと等の相談に対応する、認知症の専門家によって構成されたチームです。認知症の早期診断、早期対応をするため訪問を行っています。

七宝病院内に設置 052-443-7800

■ 認知症疾患医療センター

愛知県指定の認知症専門機関です。鑑別診断・相談等を行い必要な支援に結び付けます。

認知症疾患医療センター七宝病院 052-443-7800（初回受診は要予約）
※サポート医がいます

■ 認知症サポート医

認知症、その疑いがある方に対し、早期から地域の中で必要な医療や介護へと繋いだり、専門医療機関や地域包括支援センターとの連携の推進役となる医師（サポート医）がいます。

小野クリニック 445-2221（小路三丁目9-6）
ひだまりこころクリニック 441-0800（甚目寺五位田156）
宮地クリニック 444-1064（篠田小塚48）

■ 若年性認知症の相談

愛知県若年性認知症総合支援センター 月～土10：00～15：00（祝日・年末年始を除く）
0562-45-6207

愛知県認知症介護相談（公益社団法人 認知症人と家族の会） 月～金10：00～16：00（祝日・年末年始を除く）
0562-31-1911

あま市ふれあいケアパス
発行 令和2年度
あま市 福祉部 高齢福祉課 地域包括支援センター
〒490-1198 愛知県あま市甚目寺二伴田76番地
TEL：052-444-3159 FAX：052-443-3555

あま市

ふれあいケアパス

～認知症になってもならなくても
誰もが安心して暮らせるために～



…… ふれあいケアパスとは ……

「もしかしたら認知症かも」と不安に思った時、本人や家族がどこに相談したらよいのか、認知症の症状に応じてどのような支援（サービス）が利用できるのか等を示したものです。

認知症の早期発見・予防のため、また認知症とともに住み慣れた地域で適切な支援を受けながら暮らしていくためにご利用ください。

あま市福祉部高齢福祉課
地域包括支援センター

認知症を知ろう

1

普通のもの忘れと認知症との違い

認知症の初期症状にみられる「もの忘れ」は、加齢による普通の「もの忘れ」とは違います。

普通のもの忘れ

- 体験の「一部」を忘れる
- 「何を食べたか」思い出せない
- 「約束をすっかり」忘れてしまう
- 目の前の「人の名前」が思い出せない
- 物を置いた場所を「しばしば」思い出せない
- 「ヒントがある」と思い出せる

認知症のもの忘れ

- 体験の「全部」を忘れる
- 「食べたこと自体」思い出せない
- 「約束したこと自体」を忘れる
- 目の前の人「誰なのか」分からない
- 置き忘れ、紛失が「頻繁」になる
- 「ヒントがあっても」思い出せない

2

認知症の症状

認知症の症状には、多くの人に共通して現れる「**中核症状**」と本人の性格や人間関係などの影響が加わって起こる「**行動・心理症状**」があります。

中核症状

- もの忘れ
- 状況判断ができない
- 計算ができない
- 時間・場所・人が認識できない
- 手順よく物事を進められない など

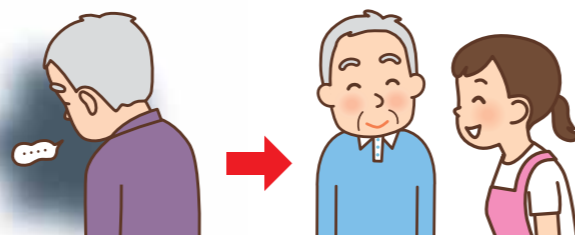
治すことが
難しい



行動・心理症状 (BPSD)

- 無気力になる
- 物が盗まれたと騒ぐ
- 徘徊
- 怒りっぽい・怒鳴る
- なかなか寝付かない など

改善する
ことができる



行動・心理症状は、家族の接し方や適切な薬物療法により改善が可能です。

認知症に早く気づこう

No	チェック項目	チェック
1	同じことを言ったり聞いたりする。	
2	置き忘れやしまい忘れが目立ってきた。	
3	物の名前が出てこなくなった。	
4	薬の管理ができなくなった。	
5	以前はあった関心や興味が失われた。	
6	だらしくなった。	
7	日課をしなくなった。	
8	時間や場所の感覚が不確かになった。	
9	慣れたところで道に迷った。	
10	財布などを盗まれたという。	
11	ささいなことでも怒りっぽくなった。	
12	蛇口、ガス栓の閉め忘れ、火の用心ができなくなった。	
13	複雑なテレビドラマが理解できない。	
14	料理の手順が悪くなった。	
15	機械の操作が覚えられない、使いこなせない、使い方を忘れる。	
16	思考が遅くなった、判断力が落ちた。	
17	夜中に急に起き出して騒いだ。	
18	幻覚を見る。	

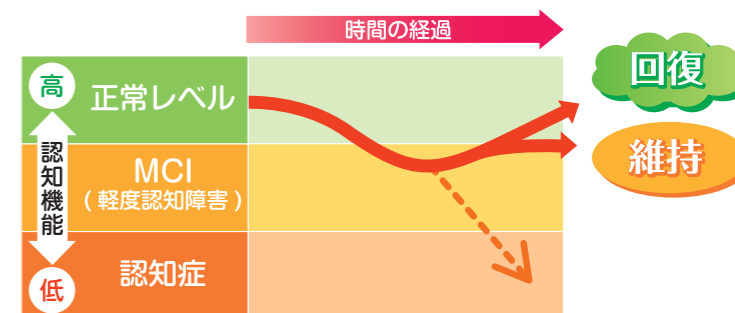
(国立長寿医療研究センターもの忘れ外来で使われているチェックリストより)

少しでも気になることがあれば、かかりつけ医やお近くの地域包括支援センターへご相談ください。

知っておきたい軽度認知障害(MCI)

- ① 認知症ではない
 - ② 日常生活には支障がない
 - ③ もの忘れの自覚がある
- 状態のことを軽度認知障害 (MCI) といいます。

最近の研究では、この段階で予防に努め、適切に対処すれば、約半数の方が正常レベルに戻ったり、認知症の進行を遅らせることができると言われています。



MCIのうちに対処すれば、
認知機能を回復したり、
維持できたりします。



ケアパス

健康 → あれ?もの忘れかな → そろそろ誰かの見守りが必要 → 日常生活に誰かの見守りが必要 → 常に手助けが必要

認知症の進行に応じた変化	認知症の疑い	認知症を有するが日常生活は自立	誰かの見守りがあれば日常生活は自立	日常生活に手助け・介護が必要	常に介護が必要
本人の様子 (こんなことはありませんか?)	なんとなくおかしいと感じて不安になる 約束したことを忘れて探し物が増える	もの忘れによる生活のし辛さがある 日付や時間がわからなくなる 片付けが苦手になる	服薬やお金の管理ができない 電話の対応や訪問者の対応などが1人では難しい	着替えや食事、排せつ、入浴などに手助けが必要になる	車いす、ベッドでの生活が中心になる 言葉による意思表示、理解が困難になる
家族の気持ち(例)	第1ステップ とまどい・否定 ・今までになかった言動にとまどう ・悩みを肉親にすら打ち明けられず、一人で悩む ・「年のせいだろう」「言えばできるはず」と否定しようとする	第2ステップ 混乱・怒り・拒絶 ・どう対応してよいかわからず混乱し、ささいなことに腹を立てたり、叱ったりする ・精神的・身体的に疲労し、拒絶感・絶望感に陥りやすい最もつらい時期	第3ステップ 割り切り ・イライラしても何もメリットがないと思い割り切るようになる ・症状は同じでも介護者にとって「問題」は軽くなる	第4ステップ 受容 ・認知症である本人のあるがままを受け入れられるようになる	
家族の心がまえ ケアのポイント	気づき～相談 ・早めにかかりつけ医や地域包括支援センターに相談しましょう ・認知症や介護について学ぶ機会を持ちましょう ・友人や地域とのつながりを大切にしましょう	介護保険の申請等 ・腹が立ってあたりまえ、ひとりで抱え込まないで交流会などで情報を得る機会をつくりましょう ・どのような医療や介護があるかを知り「頑張りすぎない介護」をこころがけましょう ・認知症を身近な人に伝えて理解者や協力者をつくりましょう	日常的な支援 行動・心理症状や身体症状への対応	重度 終末期のケア ・介護者があつての介護です、まずは自分の健康を大切に ・必要に応じて施設の情報収集をしたり、医師やケアマネジャー等と終末期のケアの対応を確認しておきましょう	
相談 6～8ページ	地域包括支援センター 愛知県認知症介護相談	認知症初期集中支援チーム 愛知県若年性認知症総合支援センター	介護者のつどい 認知症の人と家族の会愛知県支部		
学びやつどいの場 6ページ	認知症サポーター養成講座・認知症予防講座・介護者のつどい・ふれあいカフェ等				
予防 6～7ページ	楽しみや役割を持って活動的に過ごしましょう(ふれあい・いきいきサロン、老人クラブ、シルバー人材センター、趣味等) 身近な交流ができる場所に出かけましょう。(ふれあい・いきいきサロン、老人クラブ、ふれあいカフェ等)				
医療 8ページ	かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬剤師(まずは、本人の状況をよく知っている身近なかかりつけにご相談ください) 専門医療機関: 認知症サポート医、認知症疾患医療センター				
介護 7ページ	介護サービス・介護予防サービス・日常生活支援総合事業				
困った時に活用できるサービス 7ページ	あま市高齢福祉課: 緊急通報システム事業・徘徊高齢者家族支援サービス事業・徘徊高齢者等SOSネットワーク事業 あま市社会福祉協議会: 安心支え合いネットワーク事業・日常生活自立支援事業・寝具洗濯乾燥消毒サービス事業・配食サービス事業 あま市シルバー人材センター: シルバーお助け隊				
住まい・施設	有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅・軽費老人ホーム(ケアハウス)・認知症対応型共同生活介護(グループホーム)			介護老人保健施設・介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)・介護医療院	

若年性認知症とは

65歳未満で発症した認知症のことを、若年性認知症と呼んでいます。

若年性認知症になると、これまでと同様の仕事を継続することが難しくなったり、日常生活に支障をきたしたりすることがあり、家族も含め、生活が大きく変わることがあります。

若年性認知症が疑われたら、一人で悩まずに神経科や神経内科、精神科、心療内科、もの忘れ外来などを受診しましょう。

若年性認知症の支援については下記のようにさまざまな支援があります。

- 経済的・福祉的な支援
- 医療的な支援
- 雇用施策での支援
- 自立支援法による支援
- 介護保険での支援

詳細については、お近くの地域包括支援センターや認知症疾患医療センターへお問い合わせください。

さまざまな事業やサービス

学び

☆認知症サポーター養成講座

認知症の基礎知識を得て、地域で見守り等をするサポーターを養成します。



☆認知症予防講座

コグニサイズ等の体操や脳トレなどを楽しく行いながら認知症予防について学びます。



《問い合わせ》

あま市地域包括支援センター
電話 052-444-3159
Fax 052-443-3555

成年後見制度

認知症の人の日常生活の支援や財産管理、悪質商法によって被害を受けないようにするなど、家庭裁判所が選んだ後見人などが本人の保護や支援を行います。支援の内容は本人の判断能力によって異なります。

《問い合わせ》 あま市地域包括支援センター 電話 052-444-3159 Fax 052-443-3555

つどいの場

☆ふれあいカフェ

認知症が心配な方やその家族、地域住民など、どなたでも参加の出来る集いの場所です。



☆介護者のつどい

介護をしている方や介護を経験された方たちがお話しする場です。介護の大変さを共感したり、介護情報を交換することで息抜きをしています。

《問い合わせ》

あま市地域包括支援センター
電話 052-444-3159 Fax 052-443-3555

予防・つどいの場

☆ふれあい・いきいきサロン

高齢者等の生きがいづくり・社会参加・健康づくり・閉じこもり防止を目的として、楽しく気軽に仲間づくりを行っています。



《問い合わせ》

あま市社会福祉協議会
電話 052-443-4291
Fax 052-443-5461

予防・つどいの場

☆はつらつクラブ

軽い体操に加え、口腔や栄養の講話を通じ、心身の健康づくりを目的とした教室です。

☆ワクワクからだ教室

ストレッチや体操など体を動かすことを中心とした教室です。



《問い合わせ》

健康推進課 甚目寺保健センター
電話 052-443-0005 Fax 052-443-5461

サービス

☆緊急通報システム事業

虚弱な在宅ひとり暮らし高齢者およびひとり暮らしに準ずる世帯の高齢者に対して、緊急通報システム機器を設置します。

☆徘徊高齢者家族支援サービス事業

認知症高齢者が行方不明になった際に、早期に居場所を発見できる『探知機』をお貸しします。

☆徘徊高齢者等SOSネットワーク事業

見守りが必要な高齢者に「高齢者見守りステッカー」を交付します（事前登録必要）。

《問い合わせ》

高齢福祉課
電話 052-444-3141 Fax 052-443-3555

介護保険制度

介護サービスや介護予防サービスを利用するには、要介護（支援）認定の申請をして、「介護・支援が必要である」と認定されることが必要です。

まずはご相談ください。

《問い合わせ》

高齢福祉課
電話 052-444-3141
Fax 052-443-3555



サービス

☆安心支え合いネットワーク事業

地域のボランティアの方が、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯等に対し、見守り・声かけ等の安否確認を行っています。

☆日常生活自立支援事業

自分ひとりで契約などの判断をすることが不安な認知症高齢者等が、福祉サービスを利用する手続きなどのお手伝いをします。

☆寝具洗濯乾燥消毒サービス事業

☆配食サービス事業

《問い合わせ》

あま市社会福祉協議会
電話 052-443-4291
Fax 052-443-5461



サービス

☆シルバーお助け隊

日常生活のちょっとした困りごと（30分未満でできる福祉・家事援助）をシルバー会員がワノンコイン=500円でお助けします。

《問い合わせ》

あま市シルバー人材センター
電話 052-442-5010 Fax 052-462-0750